

この一年、コロナ感染拡大を憂慮する日々でした。その中で、東京2020オリンピック・パラリンピックが開催されました。開催の是非は別にして、オリンピック・パラリンピック開催を通して心に残るのは「多様性の尊重」の気運が高まり、国際的な課題になつたことのように思います。競技では日本の中学生も活躍したスケードボー

リコロナ対応で活動が制約される中、あつという間に十月になつてしましました。天候も不順で、夏の実感もないままに秋に入つてしまつたように思ひます。会員の皆様にはご健勝でお過ごしのことと拝察いたしました。

四月の会報でお知らせしましたように、コロナ感染拡大の状況を考慮して第十八回合祀慰靈祭を一年延期し、来年六月に執り行うことになりました。また、総会は役員会に代えて実施することにしておりましたが、感染拡大が憂慮される状況から、二度延期して十一月十日に開催することになりました。本年度の事業活動、予算の執行については、本年四月の会報でお知らせした内容で進めております。ご心配をおかけしておりますが、本会の活動の趣旨から健康安全を第一に考えての措置でありますので、是非ご理解いただきたいお願い申し上げます。

この一年、コロナ感染拡大を憂慮する日々でした。その中で、東京2020オリンピック・パラリンピックが開催されました。開催の是非は別にして、オリンピック・パラリンピック開催を通して心に残るのは「多様性の尊重」の気運が高まり、国際的な課題になつたことのように思います。

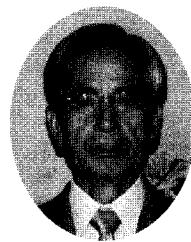
中、児童生徒の参加だけは認められたことについてです。世界最高レベルの競技を、将来ある青少年には直接見せたいという趣旨だと思いますが、児童生徒や先生方はどう感じていたのだろうかと思ひました。子ども達のためにこの機会を逃さないということも大切ですが、現状を客観的に把握し、健康安全を考慮し、感染防止を第一に対応することも一つの大事な教育であるように思います。子ども達にとってどちらがより教育的であり、判断力を高め、生きる力を養うかについて、先生方が教育の専門家として議論し、考えを深め合つて対応することが必要であると考えました。

この一年、教職員免許状取扱の見直しについての報道がなされました。終身有効であつた教員免許状について、教員の適格性や指導力などの観点からと考えます。が、先年、新たなきまりができ更新制が制度

ドがオリンピックに新風を吹き込んだように思います。階段の手すりを競技の舞台にしてしまうなど、日頃自由に楽しんできたものをスポーツ競技に高めた意味でも画期的であったと思いました。特に考えさせられたのは、無観客での開催の

戦後の新しい教育制度の中では、中学校は、小学校や高等学校と異なり、「新制中学校」としてまさに零からのスタートでした。さらに急激な生徒増への対応、校内暴力や不登校などの生徒指導に関わる対応、進学志向の高まる中での進路指導、課外活動としての部活動の推進など、中学校独自の多くの課題がありました。校長先生方が協力連帯して、課題解決と教育活動の充実について、内外に向けて声を大にして発信し、世論を喚起しながら学校教育の要としての中学校教育の充実発展を図りました。その努力、実践の精神が中友会の基盤になっています。

今、IT（情報技術）端末の活用による授業改善やオンライン授業など、学校教育におけるデジタル社会への対応も新たな課題になっています。先達のフロンティア精神に学びながら、新しい時代の中学校教育の在り方について基本にかえつて議論し、広く社会に発信して、社会と共に中学校教育を盛り上げ公立中学校としての役割を存分に發揮して欲しいという思いを強くしています。



## 中学校教育への期待

中友会会長 宇津木 順一

**中友会**

[発行所]

**中友会**

港区西新橋1-22-13  
全日本中学校長会館202号室  
東京都中学校長会事務局内  
TEL 03-3504-8705  
FAX 03-3504-8706

会則第2条

●親睦助 ●生涯學習

<http://chuyu-kai.org/>

化されました。その見直しがされるということです。教員免許についての問題であります。一人にかかる基本的な問題であります。当事者として先生方がこの問題をどのように捉え、理解されておられるのかと想いながら、見直しの行方を見守りたいと思いました。

不登校児童生徒の増加についての報道もあります。とともに、人との関わり方など社会人としての基盤を育むところであり、不登校の問題は学校教育の基本に関わる課題であると考えます。また、自ら命を絶つ青少年の増加という憂慮する事態の報道もあります。それぞれ、学校だけでは解決できない深刻な問題ですが、校長先生をはじめ先生方はこれらの課題をどう受け止め対処していくのか、特に公立学校という立場から、学校の使命、役割などについて、改めて基本にかえつて検討し、よりよい方策を見出し積極的に対応していくことが重要であると考えます。

中学校は、小学校や高等学校と異なり、「新制中学校」としてまさに零からのスタートでした。さらに急激な生徒増への対応、校内暴力や不登校などの生徒指導に関わる対応、進学志向の高まる中での進路指導、課外活動としての部活動の推進など、中学校独自の多くの課題がありました。校長先生方が協力連帯して、課題解決と教育活動の充実について、内外に向けて声を大にして発信し、世論を喚起しながら学校教育の要としての中学校教育の充実発展を図りました。その努力、実践の精神が中友会の基盤になっています。

今、IT（情報技術）端末の活用による授業改善やオンライン授業など、学校教育におけるデジタル社会への対応も新たな課題になっています。先達のフロンティア精神に学びながら、新しい時代の中学校教育の在り方について基本にかえつて議論し、広く社会に発信して、社会と共に中学校教育を盛り上げ公立中学校としての役割を存分に發揮して欲しいという思いを強くしています。